

企画展
異端の奇才 ビアズリー 展

十九世紀イギリスの画家、
待望の高知初上陸



センセーショナルでエレガント、
ユーモラスでグロテスク

オーブリー・ビアズリー
《クライマックス》1893 年

■開催概要

主催	高知県立美術館（公益財団法人高知県文化財団）、ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館、朝日新聞社、KUTV テレビ高知
会期・開館時間	2025（令和 7）年 11 月 1 日（土）～2026（令和 8）年 1 月 18 日（日） ※12 月 27 日（土）から 1 月 1 日（木）は休館 9：00～17：00（入場は 16：30 まで） ※12 月 18 日（木）は 19：00 まで（入場は 18：30 まで）
観覧料	一般前売 1,360 円、一般当日 1,700 円（1,360 円）、大学生 1,000 円（800 円）、高校生以下無料 【前売券販売所（予定）】県立美術館ミュージアムショップ、金高堂書店本店、こうち生活協同組合（コープよしだ、コープかもべ）、県庁生協売店、ローソンチケット（Lコード：63171） （ ）内は 20 名以上の団体料金／年間観覧券所持者は無料／身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳及び被爆者健康手帳所持者とその介護者（1 名）、高知県及び高知市長寿手帳所持者は無料
後援	ブリティッシュ・カウンシル、高知県教育委員会、高知市教育委員会、高知新聞社、NHK 高知放送局、KCB 高知ケーブルテレビ、エフエム高知、高知シティ FM 放送
協力	日本航空

■展覧会の趣旨

ヴィクトリア朝イギリスで活躍した画家、オーブリー・ビアズリー。オスカー・ワイルド著『サロメ』挿絵の血のしたたる頭部を持って嘔う女性像はあまりにも有名です。選び抜いた線、斬新な画面構成、独自の物語解釈によって描かれた作品は、その妖しい魅力によって多くの人を惹きつけました。その後も雑誌『イエロー・ブック』や『サヴォイ』、ポープの『髪盗み』の挿絵など意欲的に制作を続けますが、幼少より患っていた結核のため 25 歳という若さで亡くなります。大胆な白と黒の色面のなか渦巻く髪の毛、流れるような衣、図案化された植物——緻密な線と繊細な点描で描き込まれた作品群は、今なお多くの画家やデザイナーに影響を与えています。

本展覧会ではイギリスのヴィクトリア・アンド・アルバート博物館 (V&A) の協力により、初期から晩年までの作品約 200 点を展示します。出世作『アーサー王の死』から後期の傑作『モーパン嬢』の挿絵の数々、希少な直筆の素描、彩色されたポスターや、家具、食器といった同時代の調度品などを通じて、19 世紀に花開いた退廃的で優美な世界をご覧ください。

■主な展示作品 『アーサー王の死』『サロメ』『モーパン嬢』『エドガー・アラン・ポー作品集』『イエロー・ブック』『ザ・サヴォイ』 展示総数 209 点

■オーブリー・ビアズリー Aubrey Beardsley (1872-98)



イギリス・ブライトン出身。家計を支えるため 16 歳から事務員として働き、夜間に制作活動を行った。トマス・マロリー著『アーサー王の死』(1893-94) や オスカー・ワイルド著『サロメ』(1894) の挿絵で成功してからも、ろうそくの光のもとで絵を描いたのは、その名残といえる。1895 年にワイルド裁判の余波で『イエロー・ブック』美術編集の職を失うが、季刊誌『サヴォイ』(1896) やアレクサンダー・ポープ著『髪盗み』(1896) の挿絵で新境地を見せた。

幼少期からの肺結核により 25 歳で他界。

1. フレデリック・エヴァンズ
《オーブリー・ビアズリーの肖像
——横顔》
1894 年頃

■展覧会の見どころ

① 高知初のビアズリーの大回顧展！

直筆約 50 点を含む、初期の代表作『アーサー王の死』、ビアズリーの名を知らしめた『サロメ』挿絵から繊細な点描を用いて制作された典雅な『髪盗み』、『モーパン嬢』など晩年の作品まで網羅。

② ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館全面協力！

イギリス・ロンドンにあるヴィクトリア・アンド・アルバート博物館（V&A）は早い時期からビアズリー作品を収集しています。世界有数のビアズリー・コレクションから 150 点が一挙来日します。

③ サロメの系譜をたどる

新約聖書に登場する王妃ヘロデヤの娘サロメは西洋美術のなかでさまざまな画家たちによって描かれ、世紀末には妖艶な美女としてイメージされるようになります。19 世紀の画家ギュスターヴ・モロー、アルフォンス・ミュシャなどが描いたサロメ、また舞台芸術における多様なサロメの姿をご紹介します。

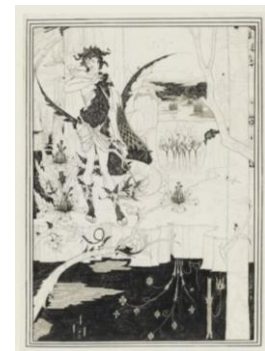
④ 19 世紀イギリスで流行した調度品の数々を展示

19 世紀後半のイギリスでは、日本の文物から影響を受けてデザインされた「アングロ＝ジャパニーズ様式」が流行しました。ビアズリーの生きた時代を感じられる家具や食器などの装飾美術を紹介します。

■出品内容

1. はじまり The Beginning

1872 年、イギリス南部の海辺の都市、ブライトンでビアズリーは生まれます。16 歳でロンドンに移り住みますが、経済的な理由から美術学校に通うことはできず、独学で絵を学びました。昼間は事務員として働き、自宅に戻るとろうそくの灯かりを頼りに素描制作に没頭します。その素描を目にした人物から仕事の依頼が舞い込み、画業が始まることになります。本章では、初期の傑作『「ジークフリート」第 2 幕』をはじめ、ビアズリーに影響を与えたイタリアルネサンス期の画家アンドレア・マンテーニャの版画、子供のころに愛読したケイト・グリーナウェイの絵本などを紹介します。



2. オーブリー・ビアズリー
『「ジークフリート」第 2 幕』1892 年

2. 初期ビアズリー Early Beardsley

1892 年、出版業者から『アーサー王の死』の挿絵の依頼を受けたのを機にビアズリーは仕事を辞め、画家として身を立てていくことを決意します。独自の画風を開花させた『アーサー王の死』挿絵のほか、愛らしい『名言集』挿絵や、ビアズリーが影響を受けたバーン＝ジョーンズ、ホイッスラーらの作品、モリスの書籍を展示します。



3. オーブリー・ビアズリー
『アーサー王は、唸る怪獣に出会う』1893 年

3. 成功―「ビアズリーの時代」の到来 Success: The 'Beardsley Period' Dawns

1893年に創刊された雑誌『ステューディオ』は、まだ無名だったビアズリーを大々的に取り上げました。この時掲載された一枚にオスカー・ワイルドの戯曲『サロメ』の一場面を描いたものがあります。この作品がきっかけでビアズリーは『サロメ』英語版の挿絵画家に抜擢され、人気をよびます。21歳のビアズリーは時代の寵児となり、革新的な文芸雑誌『イエロー・ブック』の編集に携わり、その才能を遺憾なく発揮しました。

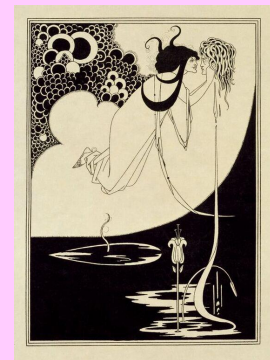
『サロメ』挿絵



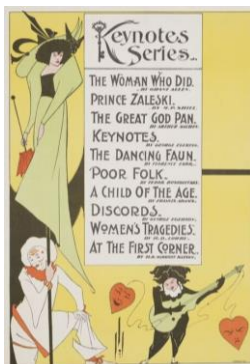
4. オーブリー・ビアズリー
《孔雀の裳裾》1907年



5. オーブリー・ビアズリー
《サロメの化粧Ⅱ》1907年



6. オーブリー・ビアズリー
《クライマックス》1893年



7. オーブリー・ビアズリー
《「キーノート叢書」の宣伝
ポスター》1966年



8. オーブリー・ビアズリー
《アヴェニュー劇場公演の
宣伝ポスター》1894年

4. ワイルドの「サロメ」 Oscar Wilde's *Salomé*

ビアズリー独自の世界観を反映した『サロメ』の挿絵は、戯曲の作者ワイルドがかならずしも満足するものではありませんでした。この章では、ワイルドや同時代の人々を魅了したサロメのイメージを、モローやミュシャといった19世紀の画家による絵画や舞台など様々な角度から紹介します。



12. チャールズ・リケッツ
《サロメ》1925年
ブラッドフォード地区美術博物館
Photo: Bradford Museums & Galleries
/ Bridgeman Images

5. 制作の裏側 Behind the Scenes

ロンドンに瀟洒な自邸を構え、名声を手にしたビアズリーでしたが、ワイルドがスキャンダルに巻き込まれると、その余波を受け、『イエロー・ブック』の仕事を失います。定収入を絶たれたビアズリーは生活費のために「よからぬ」絵に手を染めることもありました。当時の秘めやかな作品の一部や自邸の書斎で発見された品をご覧ください。



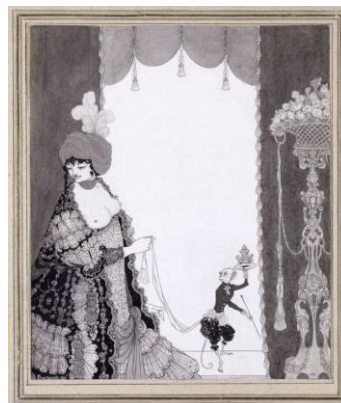
9. オーブリー・ビアズリー
《詩人の残骸》1892 年

6. 成熟に向けて Towards Maturity

1895 年、ビアズリーは新たに立ち上げた雑誌『サヴォイ』を発表の場として作品制作に精力的に取り組み、『髪盗み』や『モーパン嬢』といった繊細な点描が美しい後期の挿絵も手掛けました。しかし幼少から患っていた結核が悪化し、25 歳と半年という短い生涯を閉じました。最後まで自らの表現を追求した作品群をご覧ください。



10. オーブリー・ビアズリー
《愛の鏡》1895 年



11.
オーブリー・ビアズリー
《猿を連れて来た婦人》1897 年

※1～11 はヴィクトリア・アンド・アルバート博物館 Photo: Victoria and Albert Museum, London

■ 展覧会関連企画

1.	開館記念日 入場無料！ 日時：11月3日（月・祝） 各展示室でギャラリートークを実施します。
2.	秋の定期上映会「異才たちの宴 ポーと乱歩とビアズリー」 会場：美術館ホール 入場料：1 プログラム券 前売 1,200 円/当日 1,500 円 ※各プログラム入替制 相互割引：本展のチケット又は半券提示で上映会を前売料金、上映会のチケットまたは半券提示で本展が前売料金でご覧いただけます。

	日時：11月15日（土） A プログラム 12：00～13：07 『アッシャー家の末裔』 13：20～14：47 『黒蜥蜴』 B プログラム 15：15～16：16 『モルグ街の殺人』 16：25～17：31 『黒猫』 A プログラム 18：00～19：07 『アッシャー家の末裔』 19：20～20：47 『黒蜥蜴』 11月16日（日） A プログラム 10：00～11：07 『アッシャー家の末裔』 11：20～12：47 『黒蜥蜴』 B プログラム 13：30～14：31 『モルグ街の殺人』 14：40～15：46 『黒猫』 A プログラム 16：15～17：22 『アッシャー家の末裔』 17：35～19：02 『黒蜥蜴』 各上映作品の詳細は、上映会のチラシ、またはウェブサイトをご覧ください。
3	記念講演会： 「ビアズリーとボッティチェリ：再発見されたルネサンス画家と19世紀末のイギリス美術」 日時：11月24日（月・祝）13:30-15:00 講師：高橋裕子（学習院大学名誉教授、芸術書出版アートワークス代表） 会場：1階講義室 ※聴講無料、予約不要 ビアズリーは「異端の美術家」と見られることが多く、確かに彼が短い生涯の間に残した作品は、そのユニークさで強い印象を与えます。しかし、無から有は生じないという常識は、実はビアズリーにも当てはまるのかもしれませんが。彼の芸術を19世紀のイギリスにおける「ボッティチェリの再発見」という現象と関連付け、その影響を受けた他の美術家たちと比較した上で、ビアズリーの独自性とは何かを改めて探究します。 高橋裕子（たかはし・ひろこ）プロフィール：1949年東京生。上智大学文学部史学科を経て東京大学大学院人文科学研究科で西洋美術史を専攻、美術史関係の書物の著述や翻訳に携わる。1994年から千葉工業大学でデザイン史を、1998年からは学習院大学文学部哲学科で美術史と芸術学を講じた。2018年の大学退職後は、有限会社アートワークス代表として翻訳芸術書の刊行に注力している。本講演に関わる著書に『世紀末の赤毛連盟』と『イギリス美術』（共に岩波書店だが絶版）、最新の訳書としてフランシス・ハスケル著『束の間の美術館』（アートワークス、2025年4月）がある。
4.	ワークショップ 「白と黒で描く蔵書票」 ペンとインクでオリジナルの蔵書票（本の持ち主を示すためのラベル）を作ります。 日時：11月30日（日）、12月7日（日） 13：30－15：30 ※2回とも参加できる方 講師：山本明子（画家、イラストレーター）

	対象：中学生以上 定員：15 名 参加費：500 円 ※要観覧券 会場：1 階 創作室 申込方法：お電話（088-866-8000、9：00～17：00）もしくは E メール （museum@kochi-bunkazaidan.or.jp、件名：ビアズリー展 WS、①お名前②電話番号③年齢④人数を記入）にてお申込みください。
5.	スペシャルコラボ 高知会場限定！12 月来場者企画 ビアズリー×楠本まき 特製しおりプレゼント ※なくなり次第配布終了 ビアズリーの肖像写真を元に本展のために描きおろしたイラスト入り特製しおりを配布予定。 楠本まき（くすもと・まき）プロフィール：漫画家。著書に「KISSxxxx」「K の葬列」「致死量ドーリス」「赤白つるばみ」などがある。2021、22 年には大規模個展『線と言葉・楠本まきの仕事』を京都国際マンガミュージアム、弥生美術館にて開催。自身が「もっとも影響を受けた画家」としてビアズリーの名を挙げている。英国にまつわるエッセイも多数執筆。ロンドン在住。『楠本まきコレクション』（小学館クリエイティブ）刊行中。  『K の葬列 愛蔵版』 ©楠本まき / 小学館クリエイティブ ※実際のイラストは異なります。
6.	サタデー・レクチャー「ビアズリー その源泉と影響」 日時：12 月 6 日（土）13：30～ 講師：柳澤宏美（当館学芸員） 会場：1 階講義室 ※聴講無料、予約不要
7.	担当学芸員によるギャラリートーク 日時：11 月 9 日（日）、12 月 14 日（日）、1 月 4 日（日）各 14：00～ 集合場所：2 階ビアズリー展会場 ※要観覧券、予約不要
8.	夜間開館デー 日時：12 月 18 日（木）19 時まで開館（入場は 18：30 まで） 17：45 からギャラリートーク有
9.	ティーチャーズ・デー 高知県内の教職員の方を無料で展覧会に招待します。担当学芸員のギャラリートーク付きで本展を鑑賞したのち、学校利用についてのカウンセリングを行います。図工や美術以外の先生でもご参加いただけます。 日時：12 月 14 日（日）14：00～ ※要予約 申込方法：お電話（088-866-8000）にて 12 月 7 日（日）までにお申込ください

10.	予約制無料託児サービス 日時：11月15日（土）11：45～15：00 11月16日（日）13：15～16：00 11月17日（月）10：00～13：00 定員：各回6名程度 料金：無料（要観覧券） 対象：本展、もしくは上映会を鑑賞される方のご家族で、生後6ヶ月から就学前のお子さま 申込方法：お電話で仮予約の上、申込書を11月8日（土）までにお送りください。
11.	同時開催：コレクション・アラカルト展③ 「日本のビアズリー」 山六郎の作品を展示 高知県出身の図案家、装幀家の山六郎（1897-1982）は大阪の中山太陽堂に入社後、1922年にプラトン社に出向、雑誌『女性』創刊にあたりタイトルロゴ、装幀、挿絵等を担当しました。繊細で流麗な線で描かれた挿絵はビアズリー風のスタイルとして人気を博しました。展示室A「コレクション・アラカルト③」で当館所蔵の作品や個人蔵の作品を展示予定です。
12.	ミュージアムカフェ マルク コラボメニュー 会期中、英国発祥のアフタヌーンティー（紅茶と焼菓子等のセット）を販売します。

●内覧会

10月31日（金）14：00～17：00（入場は16：30まで）

15：00頃より担当学芸員によるギャラリートークを行います。

一般ご招待者 ※予約不要・ご招待葉書をお持ちの方のみご入場いただけます。

報道メディア ※事前予約制・下記連絡先までお申し込みください。上記日時以外のご取材を希望の場合はご相談ください。

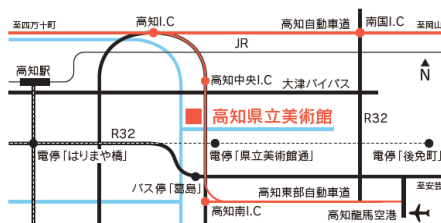
高知県立美術館 学芸課

柳澤宏美 hiromi_yanagisawa@kochi-bunkazaidan.or.jp

朝倉芽生 mei_asakura@kochi-bunkazaidan.or.jp

■交通案内

○とさでん交通路面電車「はりまや橋」から、「ごめん」「領石通」または「文珠通」行きで15分、「県立美術館通」下車徒歩5分。○高知龍馬空港からは、高知市内-空港間を結ぶ空港連絡バスをご利用いただけます。バス停「葛島」下車徒歩16分。○車・タクシーをご利用の場合は、JR高知駅から20分、高知龍馬空港から約20分、高知インターから10分（高知東部自動車道方面からは降りられません）、高知中央インターから3分、高知南インターから10分。



■広報用画像

- ・ 作品掲載をご希望の方は、下記の「画像利用申込書」に必要事項を記入の上、メールにて申請ください。
- ・ トリミング、文字のせ等の画像の改変は不可です。
- ・ 各キャプションの明記をお願いいたします。また、正式な展覧会名と会期の表記をお願いいたします。
- ・ 二次利用の無いようご利用後のデータ削除を徹底し、画像の取り扱いには十分ご注意ください。
- ・ レイアウト原稿を事前に当館まで御提出ください。確認のため、1週間程度お時間を頂戴いたします。
- ・ 掲載記事や VTR は展覧会開催の資料として保存しますので、3部ご恵与ください。

高知県立美術館 「異端の奇才 ビアズリー」展広報画像利用申込書

媒体名：『 』

種別：テレビ ラジオ 新聞 雑誌 スリーペーパー その他

掲載予定日：

御社名： ご担当者名：

E メールアドレス：

ご住所： 〒

Tel： Fax：

図版番号：ご希望の番号に✓をおつけください。

- ☐ 1 フレデリック・エヴァンズ《オーブリー・ビアズリーの肖像——横顔》1894 年頃
- ☐ 2 オーブリー・ビアズリー《「ジークフリート」第 2 幕》1892 年
- ☐ 3 オーブリー・ビアズリー《アーサー王は、唸る怪獣に出会う》1893 年
- ☐ 4 オーブリー・ビアズリー《孔雀の裳裾》1907 年
- ☐ 5 オーブリー・ビアズリー《サロメの化粧Ⅱ》1907 年
- ☐ 6 オーブリー・ビアズリー《クライマックス》1893 年
- ☐ 7 オーブリー・ビアズリー《「キーノーツ叢書」の宣伝ポスター》1966 年
- ☐ 8 オーブリー・ビアズリー《アヴェニュー劇場公演の宣伝ポスター》1894 年
- ☐ 9 オーブリー・ビアズリー《詩人の残骸》1892 年
- ☐ 10 オーブリー・ビアズリー《愛の鏡》1895 年
- ☐ 11 オーブリー・ビアズリー《猿を連れた婦人》1897 年

※1～11 は、上記に加え、「ヴィクトリア・アンド・アルバート博物館 Photo: Victoria and Albert Museum, London」を必ず記載してください。

- ☐ 12 チャールズ・リケッツ《サロメ》1925 年、ブラッドフォード地区美術博物館
Photo: Bradford Museums & Galleries / Bridgeman Images

■取材・広報問合せ先：

高知県立美術館 学芸課

tel : 088-866-8000 / fax : 088-866-8008

柳澤宏美 hiromi_yanagisawa@kochi-bunkazaidan.or.jp

朝倉芽生 mei_asakura@kochi-bunkazaidan.or.jp